

大動物事業部

<6月の相場動向>

6月は震災対応や原発問題の先行きからの不安、政治の混迷が閉塞感を強めており、さらに梅雨で気温が上がらないことや焼肉チェーン店を舞台にした生食ユッケ事件が影響し、焼材の売れ行きが鈍くなった。量販店では薄切りや切り落としなどが売れ筋となった。これに加えて6月末に決算期を迎える企業も多く、買いが進まない状況だった。特に原発問題による輸出減が高級品である和牛に大きく影響が出て「いばらの道」が続く状況となった。更に東日本大震災後は消費の冷え込み、これに福島原発事故の風評被害が需要不振に拍車をかけ、相変わらず末端が福島県産、茨城県産の牛肉を敬遠する動きが出て、牛肉全体の足を引っ張ってしまった。

<6月牛枝肉月間価格>

和牛去勢

A5 1,954円 (前年同月比94.6%) (前月比 95.5%)

A4 1,564円 (前年同月比95.0%) (前月比 92.3%)

A3 1,319円 (前年同月比93.0%) (前月比 88.3%)

A2 1,122円 (前年同月比90.3%) (前月比 86.0%)

交雑去勢

B4 1,217円 (前年同月比99.5%) (前月比 94.6%)

B3 1,136円 (前年同月比102.2%) (前月比 95.5%)

B2 1,014円 (前年同月比103.3%) (前月比 93.4%)

乳牛去勢

B3 月間上場なし

B2 608円 (前年同月比 -%) (前月比 96.4%)

和牛去勢の5等級が前月比93円安で、3等級で131円、2等級でも175円と前月に比べて大幅な値下がりとなり、末端需要の動向を反映して和牛の値下がりが顕著となった。また、出荷頭数が少なく高値を維持していた交雑種も前月に比べて3等級で54円安、2等級でも72円安となり、需要の冷え込みを反映した相場展開となった。

<8月の全国出荷頭数予測>

8月の牛枝肉需要動向は旧盆前の前半が帰省、行楽などによって都内の牛肉消費量が減退しそうだ。しかし、地方都市、行楽避暑地など需要増が見込めそうだが、都内の需要減を埋め合わせるだけの相場展開にはなりそうもなさそうだ。反面、お盆明け後は在庫補充によって都市部の卸し、小売店、量販店などの仕入れ量が急増するうえに、この時期は焼肉中心の夏型消費形態だけでなく、ステーキなどの秋型料理も出始めるために需要増が見込まれそうだ。しかし、景気低迷が続く状況下で原発問題やそれに伴う電力の問題など、心理的な閉塞感がぬぐえない限り大幅に消費が伸びることはなさそうだ。ただ、肉質等級「5」のBMS10以上の良質和牛は、8月も少なそうのために特定の産地や一部の銘柄和牛だけが安定した価格で推移しそうだ。

農水省統計部が発表した5月の食肉流通統計によると、成牛と畜頭数は前年比3.6%増の9万4,999頭となった。そのうち和牛は7.2%増の4万595頭で引き続き増加した

が、出生頭数が減少している交雑種は2万206頭で前年に比べて8.4%も減少してしまっており、依然として品薄感が強くなっているようだ。このような状況からして、8月の和牛出荷は以下のことが言えそうだ。最近の飼養動向より出荷適齢牛は前年同月比102%前後が推定される。一方、乳牛去勢は最近の出荷動向と分娩動向から推して前年同月比97%前後になりそうである。

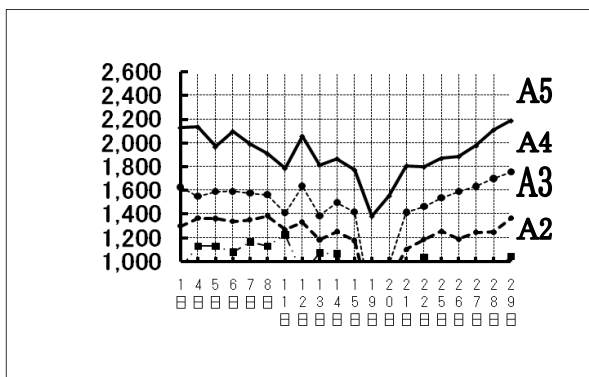
<8月の牛肉輸入量予測>

財務省は関税暫定措置法に基づく平成23年度4月～5月までの冷蔵牛肉、冷凍牛肉の輸入数量を官報で告示した。それによると、チルドは平成23年5月の輸入量が1万7,148トンとなり、累計輸入数量は3万5,744トン、フローゼンは5月の輸入量が2万2,829トンの累計が5万2,248トンとなり、第一四半期の関税緊急措置(SG)の発動基準数量からチルドで6月が前月並の輸入量でも3万8,595トンを残している。フローゼンは4月～5月が高水準であったが、第一四半期のSG発動基準数量に対して2万6,887トンの残枠となった。6月のフローゼンの輸入量は前年比6%減の2万3,400トンと見られており何とか回避される見通しだ。8月は焼肉料理の需要期でもあるが量販店などが、国内牛肉の需要の低迷もあり、外貨の上昇や過剰在庫を回避することから大幅な輸入増になりそうもなさそうだ。輸入牛肉は豪州産牛肉の輸入数量回復とともに国内需給は落ち着きを取り戻すものと見られていたが、震災による社会的な不安感、節電やユッケ食中毒事件のなかで外食や焼肉需要が低迷しているため、夏場にかけて輸入牛肉の在庫は引き続き過剰気味の展開となりそうなりそうなので、量販店や外食産業などが販売商戦を展開する可能性がなさそうだ。従って、今年の輸入量は4万5,000トンだったが、今年は節電の影響や牛肉消費そのものが先行き不透明にあるので、為替の円高、ドル安などで引き続き米産牛肉が着実に増えてきているが、8月の輸入牛肉は4万2,000トン前後の輸入量になりそうだ。

<8月の牛枝肉価格予想>

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	1,950～2,050	B4	1,200～1,250
A4	1,600～1,650	B3	1,100～1,150
A3	1,350～1,450	B2	950～1,050
A2	1,100～1,200		
乳牛去勢			
B3	700～750		
B2	600～650		

和牛去勢日別相場表(7月度)



小動物事業部

<7月の豚取引の推移>

食肉流通統計によると6月の豚全国と畜頭数は130万5,378頭(前年同月比97.7%)となった。また、6月分の豚肉通関実績は総量で7万981トン(前年同月比92.4%)、内チルドは2万3,973トン(同116.9%)、フローゼン4万7,008トン(同83.4%)となり、チルドの国別輸入量は米国が(同15.8%増)、カナダが(同25.2%増)、フローゼンは米国の現地価格高が影響し(同34.8%減)、カナダ(同48.7%減)となった。

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	55,300	562	553	443
4日	57,000	569	540	488
5日	60,800	589	563	690
6日	42,200	586	570	466
7日	61,800	590	559	621
8日	59,800	578	534	612

全国と畜頭数は5万6,000頭前後まで減少した。昨年の猛暑による影響で豚の受胎率が下がり出荷頭数が減少した事と梅雨の湿度上昇によって豚の生育が遅れて来た事が要因である。こうした事から枝肉不足が顕著となって上物価格は500円後半まで上伸した。反面、国産部分肉の売れ筋はスソ物が好調ながらロイン系の不調が続いた。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	57,400	556	501	503
12日	59,400	528	473	722
13日	57,300	517	468	539
14日	62,100	509	462	602
15日	61,500	503	448	607
19日	67,900	483	450	542
20日	64,100	523	484	586

全国と畜頭数は6万頭を割り込む水準にあり、豚肉価格は高値が続くものと予測されたが、原発の影響で牛肉から放射線量が暫定規制値を大幅に上回る事例が出た後、量販店、スーパー等に消費者から豚肉への安全性に関する問い合わせが多くなり、いわゆる風評被害が広まり豚肉価格は急速に軟調となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	62,800	526	497	394
22日	62,900	521	496	509
25日	54,300	522	494	366
26日	58,200	511	479	661
27日	57,100	505	474	457
28日	60,000	497	450	534
29日	58,700	493	462	544

全国と畜頭数は6万頭弱が続く中で、放射性物質の影響により生産段階から消費まで不安心理が高じた。こうした事から、当然に放射性物質の検査体制の早期整備や検査結果の公表、安全証明の要求にまで進展した。当市場の牛肉価格の下落に続き豚肉の流通にも風評被害がさらに強まり売れ行きの停滞につながった。

この結果、東京食肉市場の上場頭数は1万785頭で前年同月比83.1%となった。

<8月豚枝肉相場見通し>

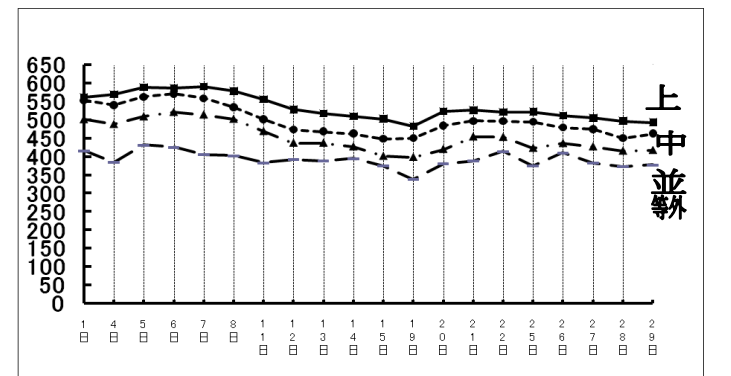
8月の全国と畜頭数は農水省によると約127万9,000頭(前年同月比99.0%)の予測で、一日当たりでは約6万3,950頭(営業日数20日)となっている。

また、当市場の7月末での8月の出荷頭数申し込み状況は約1万2,500頭となっており、一日当たり625頭となる見込みである。

農畜産業振興機構による8月分の豚肉輸入見込数量は6万3,000トン(前年度月比95.0%)と減少予測となっており、内訳は冷蔵品で2万トン強(同110.0%)、冷凍品は4万3,000トン前後(同89.0%)である。また5月の豚肉推定在庫量は、国産は2万858トン(前月比101.8%)、輸入は15万8,748トン(同107.5%)となり、全在庫量は18万7,475トン(同103.7%)となった。この事は豚肉需要期に合わせた輸入増があったものの、出回り量が振るわず在庫量の上積みとなっている。6月の食肉購買動向調査を見ると、食肉全体では前月比96.9%と一転して消費量は落ち込んだ。内訳は牛肉が同3.5%減、豚肉は同4.4%減、鶏肉は同1.5%減少した。7月に入って福島県で稲ワラを餌として与えた牛から放射性セシウムが暫定基準値を大幅に上回る事例が生じた事で、食肉全体に及ぼす消費動向に大きな変化が生じ、牛価格は大幅に下落、豚についても同県産の豚肉は風評被害を受けて下落し始めた。さらに稲ワラの給餌実態の調査や検査が進むにつれて、福島県に限らず他県にも及んでいる事から事態収拾には政治判断が迫られる。

こうした需給状況の中で、8月の全国肉豚出荷予測は一日当たり約6万頭強の予測からすると、国産豚肉生産量は回復傾向にあるが、夏場の影響が地域的に出始めており、重量不足の枝肉が目立ち始めた。よって、上旬の出荷量は落ち込み、中旬過ぎから回復してきそうだ。一方、豚のチルド輸入量は2万トン超えが確実に国内消費の回復が見られない場合は枝肉取引価格に影響が出て来ると思われる。ここまで相場の底支え役であったスソ物部位は一時的に鈍化する事も考えられるが、輸入冷凍先物の原料不足は確実な事から堅調な取引と思われる。したがって、8月の月間加重平均は「上物500円弱、中物460円絡み」と予測する。

豚日別相場表(7月度)



平成23年度全国肉用牛枝肉共助会中止のお知らせ!

毎年10月下旬に開催していましたが、今年度は、東日本大震災と福島原発の影響で、開催を中止することに致しました。関係者各位の皆様にはご迷惑おかけしますが、今後ともよろしくお願い致します。

東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
TEL 03-3740-3111
FAX 03-3472-0127
URL <http://www.tmmc.co.jp/>